

Rekitomo Newsletter

友の会研修旅行 17年間の足跡



沖縄の旧石器文化と
博物館をめぐる旅
実施日：平成 29 年 1 月 7～9 日
参加者：25 名



前嶋研究員とゆく
特別展真田丸見学ツアー
実施日：平成 28 年 7 月 18 日
参加者：51 名

まだまだ続く旅
次はどこへ…

- 平成 12 年度 「奥三面遺跡群巡検」新潟県朝日村（日帰り）
- 平成 13 年度 「米沢の上杉文化を訪ねる」山形県米沢市（1泊2日）
- 平成 14 年度 「大学博物館に考古学の現状を探る」東京都（1泊2日）
- 平成 15 年度 「群馬の博物館施設を訪ねる」群馬県榛東村・高崎市・前橋市（日帰り）
- 平成 16 年度 「謙信と信玄」長野県長野市ほか（日帰り）
- 平成 17 年度 「諏訪市原田泰治美術館を訪ねる旅」長野県諏訪市・茅野市（日帰り）
「南九州の縄文文化を訪ねる旅」鹿児島県鹿児島市・指宿市・知覧町（2泊3日）
- 平成 18 年度 「北の縄文文化—三内丸山遺跡—を訪ねる」青森県青森市・八戸市・秋田県鹿角市（1泊2日）
- 平成 19 年度 「河井継之助終焉の地・只見を訪ねる」福島県只見町（日帰り）
「東京で新年を寿ぐ」東京都（日帰り）
- 平成 20 年度 「旭山動物園と北海道の歴史に触れる旅」北海道旭川市・札幌市（2泊3日）
「日本の旧石器研究の原点—岩宿遺跡—を訪ねる」群馬県（日帰り）
- 平成 21 年度 「天地人を訪ねる—直江兼統の足跡—」山形県米沢市（日帰り）
- 平成 22 年度 「平成の玉虫厨子を訪ねる—飛騨高山の旅—」岐阜県飛騨市（1泊2日）
「日本海の至宝—山陰を訪ねる—」島根県松江市・鳥取県米子市（2泊3日）
- 平成 23 年度 「みなとびあを訪ねる」新潟県新潟市（日帰り）
- 平成 24 年度 「富山で文化施設のあり方を考える」富山県小矢部市ほか（日帰り）
「滋賀県の文化施設を訪ねる」滋賀県草津市ほか（2泊3日）
- 平成 25 年度 「震災被災地の今」宮城県石巻市ほか（1泊2日）
「新潟の弥生を知る」新潟県新潟市県内（新潟市弥生の丘展示館ほか）（日帰り）
「田中長嶺を訪ねる旅—三河地方の歴史に触れる—」愛知県西尾市・静岡県静岡市ほか（2泊3日）
- 平成 26 年度 「矢瀬遺跡と周辺を巡る」群馬県みなかみ町（日帰り）
「能登・真脇遺跡を訪ねる旅」石川県能登町・羽咋市・七尾市ほか（1泊2日）
- 平成 27 年度 「浅井研究員とめぐるロマンの旅」新潟県新潟市・新発田市・胎内市（日帰り）
「西田研究員とめぐる いわて縄文文化の旅」岩手県花巻市・二戸市・久慈市ほか（2泊3日）
- 平成 28 年度 「前嶋研究員とゆく特別展真田丸見学ツアー」長野県上田市（日帰り）

第13回マイ・コレクション・ワールドが開幕！

平成 28 年 12 月 3 日～平成 29 年 1 月 9 日まで開催された第 13 回マイ・コレクション・ワールド。今回は 15 の個人・団体にご出品いただき、延べ 27 日間の会期中 1,507 名の方にご覧いただきました。今回は毎回「花火」シリーズでご出品いただいている会員の長谷川健一さん（長岡市）にコレクションにかける思いを綴っていただきました。あわせて、来場者アンケートに寄せられた声の一部も紹介します。

コレクションを集めるには金と暇と根性（根気）と時には良好な人間関係（タダでくれる人）などが不可欠です。せっかく集めても興味のない人にはただのがらくたに写ります。今回のようにコレクターがいっぱいいてそれぞれのコレクションを同時に展示されることは大変心強いことです。対象は異なってもここまでやるのか、という気概にははなはだ勇気づけられます。

今回は花火のプログラムを出品しました。一応全国の、とタイトルにつけました。函館から熊本県八代まで 25 カ所、県内は（長岡をのぞく）20 カ所です。今や全国で 3 千カ所で開催されるといわれる花火大会です。ちなみに県内は冬季も入れて 100 カ所位と思われます。もちろん私が経験したのはごくごく一部にすぎませんが、行きたくても行かれない（高齢のため）花火大会の様子を知るのはプログラムが一番です。

1 冊が 500 円もするものや、紙 1 枚のプログラムもあります。しかし、どちらの花火も個性的で他のまねのできない独特の魅力に富んでいるのです。まずは花火打ち上げの環境（川、海、湖、山、田んぼなど）が異なります。花火師が違います。



開場式で解説する出品者の長谷川さん
平成 28 年 12 月 9 日撮影

歴史や伝統を反映したすばらしい趣向が異なります。普通には大規模な（花火玉の数が圧倒的に多い）花火大会は人気が集まりそうですが、私はそうは考えません。単純に大小だけでは比較不能な不思議な惹きつけるあるものがそれぞれの花火大会に備わっているのです。現実に「花火の駅」のお客さんの中には 1 年に全国数十カ所の花火を楽しむ人もいます。それぞれの各地の味をねらっているのです。

花火プログラムには主催者の心意気も伝わってきます。

花火の駅・長岡花火ワールド 悠

館長 長谷川 健一

来場者アンケートの声

・皆様のコレクションのお陰で楽しい時間を過ごせました。コレクションにはご苦勞もおありと思いますが、ぜひ続けていただき、この様にたまにはわたしたちにも楽しませていただけると嬉しいです。

もっと良い周知の方法はないのでしょうか。たくさんの人に見てもらいたいです。〈50 代男女・長岡市〉

・お宝と勘違いしてましたが、良かったです。〈60 代男性・長岡市〉

・他人の趣味を知ることは大変おもしろい。〈60 代男性・見附市〉

・I enjoyed having the collectors available to explain their exhibit. 〈20 代男性・USA〉

・係りの方が声をかけてくださったので、よりわかりやすかった。〈40 代女性・新潟市〉

・広すぎる。〈20 代男性・新潟市〉

・水族館の資料が興味深かった（柏崎市出身なので）。私が子供の時、何回も野外水族館に行って楽しかった記憶があります。今度実家の両親に聞いてみようと思います。私もすてきな水族館だと思っていたので、とりあげてもらいうれしかったです。〈40 代女性・三条市〉

・納豆袋みたいに迫力が欲しかった。〈60 代男性・長岡市〉

・コレクションの保存・保管方法等も知りたかった。〈70 代以上男性・十日町市〉

・今回は子供が見て楽しくなる様なコレクションが無かったと思います。前回の様な子供が「自分も何かコレクションしたい！」と思うようなきっかけになる展示があったらいいなと思いました。〈30 代女性・長岡市〉

・(今後の展覧会への期待) マニアックなコレクションの発掘。〈30 代女性・三条市〉

・とてもおもしろかったです。また来年あったら来ます。〈30 代女性・見附市〉



研修旅行参加記

沖縄の旧石器文化と博物館をめぐる旅

大久保 チエ子（長岡市）

昨年4月に「歴史博物館友の会」に入会したばかりで不安もありましたが、旅の仲間に加えていただきました。

お正月明けで時期的には雪や交通関係の心配がありましたが、順調で快適な旅でした。

沖縄での3日間は曇り空が多く、青い空・青い海を期待して行った私としてはちょっと残念でした。しかし、沖縄料理、沖縄三味線に合わせた歌や踊りなどを楽しむうちに「沖縄に来た！」と気分も盛り上がりました。

個人的には、沖縄旅行は2回目でしたが、1回目は、いわゆる一般的な観光名所をめぐる旅でした。それに比べて今回の旅は、標記のような目的をもった旅であり、各見学箇所では現地の専門の先生方から説明していただき、沖縄への関心が一層高まった旅でもあります。今回の旅では「自分がいかに沖縄について知らなかったか。」ということも感じました。

第二次世界大戦当時から現在に至るまでの様々な問題や歴史的な事実については知っていましたが、それ以前の沖縄の歴史や私たちが住む本土とのかかわりなどについてはあまり関心を持たず、今回初めて知ったことがたくさんありました。

中でも心に残ったのは、世界最古（2万3千年前）の「釣り針」が沖縄のサキタリ洞窟で発見されたということです。あの小さくて、つい見落としてしまいそうな釣り針が、私たちに伝えてくれたものはとてつもなく大きなものでした。この釣り針は現在使われている釣り針と形状はほとんど変わらず、また世界の様々な所で発掘された釣り針とも形はよく似ているということです。現在でも通用する2万3千年前の人類の知恵・技術などに感動しました。

そして、釣り針のような生活用具が発見されたということは、その当時の沖縄にそれを使った人類がいたという証明でもあり、事実1万8千年前の人類、「港川人」と呼ばれる旧石器時代の化石人骨が発見されたことも驚きでした。具志頭歴史民俗資料館で復元された港川人と対面したときには親しみさえ感じました。

その他、沖縄県立博物館・美術館、玉城グスク、サキタリ洞窟、世界遺産の斎場御嶽など一般的な沖縄旅行では行けなかったかもしれない所を案内していただき、内容の濃い忘れられない旅となりました。

後日、旅行をご一緒していただいた小林達雄先生から特別講話をいただき、沖縄の旧石器時代の人類の生活や知恵に思いを馳せることができ、一層理解が深まりました。

小林先生をはじめ、博物館の研究員、参加した会員の皆様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。



沖縄県立博物館・美術館学芸員の山崎真治さんから世界最古の釣り針について解説を聴く会員

平成29年1月7日撮影



友の会事務局担当 自己紹介

大楽 和正

だいらく かずまさ

最近、一部の会員の方には、「毎回研修旅行で案内してくれる方はどこの添乗員かしら?」「博物館のイベントで作業服を着ている男性はイベント会社の人でしょ」と噂されているようです…。

しかし、その正体は友の会事務局を担当している経営企画課主任研究員です。老けて見られがちですが37歳。採用以降、歴史博物館では最若手の不動のポジションを守り続けています。専門は民俗学で、村境に祀られる藁人形や石仏のほか、海藻のエゴや納豆などの食文化について研究を進めています。

事務局Yの後を引き継ぎ3年目。これからも大いに楽しめる友の会運営を目指して頑張ります!

Facebook

※「新潟県立歴史博物館 Facebook」
と検索するか、以下の URL にアクセス

<https://www.facebook.com/nigatarekihakku>



twitter

※「@koryu13」と検索するか、以下の URL にアクセス

<https://twitter.com/koryu13>



歴史博物館では、ホームページのほかフェイスブックとツイッターによる情報発信をしております。

企画展やイベントなどの情報はもちろんのこと、研究員の研究活動や博物館の舞台裏など、最新の情報をお届けしております。携帯電話やパソコンなどから、ぜひアクセスください。

事務局からのお知らせ

平成29年度の年間パンフレットは現在作成中です。完成次第、皆さまのもとへお届けします。来年のキーワードは「猫」「クイズ」「川中島」「博物館のチカラ」…

恒例第7回なじょもん

Myコレクション展

2月4日(土)

～3月4日(日)

農と縄文の体験学習館なじょもん
津南町下船渡乙835
☎ 025-765-5511

交流展示として、当友の会からは第13回マイ・コレクション・ワールドで展示した平澤由史枝さん(燕市)の「貧乏徳利」を出品しました。



平成29年度春季企画展開催予告

猫と人の200年

ーアートになった猫たちー

4月15日(土)

～6月4日(日)

猫は哀願し、人を癒し、私たちの暮らしに寄り添ってきた動物です。“200年”の言葉通り、今から200年前の江戸時代にも猫ブームがあり、浮世絵の画題に多く取り上げられています。本展では、歌川国芳、広重らの浮世絵師や、竹久夢二、藤田嗣治らの近代の画家が描いた様々な猫たちの姿を紹介します。

友の会主催展覧会 第14回

マイ・コレクション・ワールド

6月17日(土)

～7月9日(日)

第14回を迎えるマイ・コレクション・ワールド展を6～7月に開催します。現在、出品者を募集しておりますので、ご希望の方は友の会事務局までご連絡ください。会員外の出品も受付けておりますので、奮ってご応募ください。

※詳細については改めて

後日ご案内します。

※出品応募は

電話・FAX・郵便・メールまたは
博物館受付にて

今年度の友の会事業は概ね予定通り終了しました。映画上映会については今年度開催することができず、申し訳ありませんでした。来年度は東日本大震災の被災資料に関する企画展に関連して、「サンマとカタール」というドキュメンタリー映画の開催を予定しております。

平成29年度事業については2月27日に理事会を開催し、計画を立案中です。来年度も新たな取り組みに挑戦していきたいと思います。

新潟県立歴史博物館友の会会報 No.11

平成29年2月28日発行

【事務局】 新潟県立歴史博物館 経営企画課内

〒940-2035 新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2

TEL 0258-47-6135 FAX 0258-47-6136 E-mail reki@tomoto2014@yahoo.co.jp